

鉾田市まちづくり 推進会議広報

IPPO ～ 一歩 ～

第15号

平成30年4月27日発行

巻頭写真

「監的壕」遺された記憶

戦時中、鉾田に飛行場があったことをご存じだろうか。新宮地区と大竹地区を結ぶ県道の南側の台地に、昭和16年4月～終戦まで存在した鉾田陸軍飛行学校のことである。

飛行場は現在では一面の畑となっており、滑走路も建物も何も残っていない。学校でも受験に関係ない郷土の歴史を詳しく取り上げることはあまりないだろうから、鉾田に生まれ育ったものでさえ、飛行場が存在したことを知らない人が多いのではなかろうか。

その唯一の遺構が、少し南方向に離れた吾妻原の交差点付近に、当時のままの姿で残っている。それこそが、巻頭写真の「監的壕(かんてきごう)」

である。

監的壕とは、射撃や砲撃の命中率を観察するための施設であり、ここでは練習機からの模擬弾投下訓練に使われたという。コンクリート製で、直径約3メートル、高さ約2メートルの円柱形しており、目の高さに水平の覗き窓が設置されている。

この地で訓練を受けた若き飛行兵たちは、どのような運命をたどったのだろうか。今、歴史を遺すための行動を起こさなければ、当時の記憶を後世に伝えることは永遠に叶わなくなってしまう。

第18期ほこた塾基調講演(平成29年10月19日)で紹介され、新聞等で多くの反響のあった監的壕こそ、平成29年度を象徴する写真にふさわしい。

銚田に「ない」ものと「ある」もの

ほこた塾塾長 野村正満

縄文土器

先日、東関東自動車道の茨城空港北・銚田間がようやく開通した。4年前、ほこた塾の特別講座「史跡探訪」で建設予定地の遺跡発掘現場を訪れる機会があった。見事な火炎型縄文式土器が土の中から姿を現したところ(写真)だった。ほとんど欠損もない完璧な形の貴重な文化財である。その土器は現在、城里町の埋蔵文化財センターにある。銚田にはそのような文化財を展示収蔵する施設がないからである。



博物館や美術館

多くの自治体が歴史資料館や郷土博物館などを設けて、民家に残された古文書や歴史的価値のある遺物を整理し、記録として残す仕事をしている。そういえば、銚田市には博物館や美術館といった類いの施設がない。もちろん、本格的な音楽会やそれなりの規模の演劇を上演できる劇場ホールもない。昨年までは「市民交流館」の開館のため、準備が進められてきたのだが、建設の白紙撤回を主張する岸田一夫新市長が選挙で就任して、これまでの作業はすべて消えた。白紙撤回は決して作らないということではなく、見直すという意味なのだろうが、どうなるのかおぼろげな姿も見えていない。

文化施設

「市民交流館」についてはいろいろあった。建設反対の意見もあった。無用の長物とまではいわないものの、管理や維持に金がかかる、子や孫の代にまでそのツケをまわすことになって増税になる、といった論拠のない噂も流れた。一方で銚田市の財政状況は施設整備などのための基金積立金残高の比率は茨城県全市町村で第1位という裕福なニュースもあった。

本来なら、住民サービスや社会インフラ整備のために投資すべきところをせずに金を使わなかったのは、行政はいかに仕事をしてこなかったかということの証左でもある。もともと銚田市行政は新規事業に取り組むことには慎重だった。新たな意欲や挑戦を避けているようにさえ見えた。しかし、それではまちの活性化や将来展望は見えてこない。人口減少社会にあって、市民の暮らしはますます先が見えなくなるばかりである。少なくとも何か催し事がある時、隣町のホールを借りるのはやめて、自前の施設でできるようにはなっていて欲しい。合併特例債など、国の財政支援を活用できる期限までにそれがかなうことができるのだろうか。行政のリーダーにはその道筋を明らかにする責任があるだろう。

姉妹都市

銚田に「ない」もの……友好姉妹都市。ほとんどの自治体で国内や海外の市町村と姉妹都市を締結して、その住民との友好や交流を行っている。しかし、銚田市はどことも姉妹都市を締結していない。姉妹都市間で人の流れが生まれ、新たな可能性に繋がるきっかけにもなる。

銚田に「ない」もの……市立の公園。大竹のかしまなだ海浜公園は県立だ。

農業は全国2位

銚田に「ない」ものは山積するが、「ある」ものでまちづくりの方向性を探っていかなばなるまい。先日、農水省の全国市町村別農業産出額調査で銚田市は年780億円で全国第2位との報道があった。部門別でも野菜類とイモ類は第1位、豚が第5位だったという。東京という大消費地を相手にして、これだけの産業を持ちながら、残念にも銚田の名を知る人はほんのひと握りだ。

首都圏の台所を担う銚田に、多くの人々を呼び寄せる工夫を試みる価値は十分ある。そんな銚田の農業をアピールできる象徴的な殿堂があつてしかるべきではなかろうか。また、日本一の生産を誇る銚田のメロンはある程度知られてはいるが、生産規模は最盛期の半分以下にも落ちているともいわれている。銚田メロンの明るい見通しのための方策や広報についても、新たな考察・提案と検討が欠かせないだろう。

リンゴもミカンも

銚田に「ある」もの……豊かな自然と温暖な気候。日本中探しても、リンゴもミカンも両方採れる地域は茨城くらいだろう。それだけ自然に恵まれている。銚田にあつては東に大海原、北と西には湖があつて、それらに囲まれるように豊かな台地が続いている。北の涸沼では40年近く前に初めてヒヌマイトトンボが発見された。絶滅危惧種の小さなイトトンボである。北浦北部には10年ほど前からカムリカイツブリが繁殖している(写真)。日本で継続的に営巣繁殖する例は極めて希少だ。こうした自然環境を地域振興に活用しない手はないだろう。「今日は天気だ、ハワイが見えるか」ぐらいのキャッチコピーを駆使して、太平洋を臨む銚田の海をアピールしてもいい。



消えゆく歴史

銚田に「ある」もの……歴史。銚田は昔から水運の拠点として栄えていたという。東北地方と江戸を結ぶ物資輸送は、海の荒い房総沖を避け、内陸の水路が重宝された。銚田川(七瀬川)と巴川が北浦に注ぐ銚田には河岸が連なり、戦後しばらくは花街もある繁華な街であったという。それも今では年寄りの頭の片隅にある

かすかな記憶が頼りである。記録として残っているものはほとんどない。50年もすれば知る人は消えてしまう。

私が銚田に移り住む直前、2007年に廃止となった関東鉄道銚田線はかつては鹿島鉄道とも参宮線とも呼ばれて栄えた石岡と銚田を結んで住民の大きな足だった。終着駅・銚田駅の駅舎は風情のある趣で、市民から駅舎保存の声も上がったというが、維持管理を理由に取り壊された。「歴史」という言葉の定義は、消え行く変遷を対象化して記述・記録された結果を指す。文字や形として記録を残さなければ歴史ではない。個人や民間では利益を生み出す構図がない限り、歴史的遺物の保存は難しい。では誰がそれを担うのかと問われれば、やはり行政が文化財保護の視点から積極的に行つて欲しいと思う。先人たちはそれを果たしてきた。だからこそ、現在の私たちがいるのだし、この国がある。だが銚田市の場合、担当である教育委員会の腰は重い。

請願署名

今年2月、私はほこた塾の塾生やまちづくり推進会議メンバー有志の協力をいただいて署名を集め、3月の銚田市議会に2件の請願書を提出した。「カムリカイツブリの天然記念物指定を求める請願」と「監的壕の史跡指定を求める請願」である。「監的壕」とは戦時中に存在した旧陸軍銚田飛行学校で唯一残る遺構である。行政の監視役たる市議会なのだが、結果は採択できずに6月議会での継続審査となった。何事につけても意思決定ができない市議会には歯痒いばかりである。

メシとエサ

貴重な自然を保護し、歴史の記録を残すことは「文化」である。文化は私たちの心をより豊かにし、生活の環境を整える重要なエッセンスである。文化の息づくまちづくりで、行政の責務は大きい。私たち一般市民もそれを積極的に進めよう、そのためには協力を惜しまず、手を携えていこうという心構えが不可欠である。文化がその町の振興や繁栄に大きく貢献できるのである。銚田には「文化じゃメシは喰えめえ」という輩が少なからずいる。その人の言う「メシ」は「食事」ではなく「エサ」というのがふさわしいだろう。

SNS 進出元年 平成 29 年度 FB 掲載記事ランキング

広報部会では平成 29 年 4 月にソーシャル・ネットワーク・システム(SNS)のフェイスブック(FB)において、銚田市まちづくり推進会議のページを立ち上げ、イベントの開催案内や報告記事の掲載を開始しました。

掲載した記事全 46 件の中で反響が大きかったものは何か？ **エンゲージメント数**(「いいね！」クリック数、コメント数、シェア数より評価)でのランキングを発表します。記事が届いた人数を表す**リーチ数**も参考に示します。(集計日:平成 30 年 4 月 4 日)

第 1 位
第 6 回新春教育フォーラム開催案内
リーチ **852** エンゲージメント **81**

新春をイメージした暖かみのあるポップなパンフレットが好評で、リーチ数、エンゲージメント数ともに第 1 位を独占しました。

第6回新春教育フォーラム
銚田の子供たちの放課後をどうしていくのか
日時 2018年 1/13(土) 午後1時30分から 午後2時受付開始
会場 銚田市大洋公民館 大集会室 (電話 0291-39-3305)
10年前、安体内閣総理大臣は教育方針演説(第114回国会)で「放課後に子どもたちが自由に遊び、遊んだり、地域の人たちとも触れ合うことができるよう「放課後子どもプラン」を全国で展開します」と述べました。この方針は「少子化対策」や「教育改革」だけでなく「働き方改革」としても重要な課題として位置づけられ、これまでに茨城県内でもほとんどの町村で放課後子ども教室が実施され、多くの実績を上げています。しかし、残念ながら銚田市では未だに導入されていません。銚田の子供たちの放課後を、これからどうしていくのかを考えてみたいと思います。

第1部 制度の概要と事例紹介
①【放課後子ども総合プランの概要】茨城県子ども政策局少子化対策課
②【大子町の放課後子ども教室】NPO ひと・まちねっとわーく
③【常陸大宮市の学童保育】NPO 虹のポケット
④【銚田市の現状】銚田市子ども家選課

第2部 基調講演「地域ぐるみで放課後の子供を育てよう」
講師：長谷川幸介 (筑城大学特任教授)

第3部 パネルディスカッション「銚田の子供たちの近未来像」
パネリスト
・銚田一夫市長
・PTA 保護者代表
・1部、2部の発表者と講師ほか

このフォーラムは第 18 期ほこた塾基本講座がレギュラーの一部となります。

主催 / 銚田所まちづくり推進会議 共催 / 銚田市教育委員会 問い合わせ先 教育総務課 (電話 0291-37-4340)

第 2 位
第 18 期ほこた塾第 7 回基本講座「40ヶ国を巡ったバックパッカー、茨城に根を張る」～世界を見たからこそ思うこれからの生き方～
リーチ **267** エンゲージメント **73**

リーチ数では年間 5 位でしたが、エンゲージメント率が高く、見た人の約 3 割もの方々からの反響がありました。講師の鷲田美加氏の魅力が光った講座でした。



第 3 位
第 18 期ほこた塾 塾生募集
リーチ **493** エンゲージメント **52**

第 3 位には、ほこた塾のパンフレットがランクイン。第 18 期テーマ「地球と人にやさしいまちづくり」を視覚化したデザインもさることながら、卒塾生の言葉が良かったものと思われます。

ほこた塾 塾生募集
第 18 期テーマ「地球と人にやさしいまちづくり」
もっと別な視点を見つけよう
そんな世界があるなんて
あなたも一緒に考えてみませんか

卒塾生の言葉「ほこた塾に参加して」

小宮 さん
「ほこた塾に入塾したのが、人生で最も大切な決断でした。自分自身を成長させるだけでなく、地域社会にも貢献できる場所に出会えました。卒業後も、ほこた塾の仲間とつながり、お互いに支え合っています。」

藤内 さん
「ほこた塾で学んだことは、私の人生に大きな影響を与えました。特に、地域社会の課題をどう解決していくかという視点が変わりました。卒業後も、ほこた塾の仲間とつながり、お互いに支え合っています。」

期間：2017年10月～2018年2月
募集人数：10名程度(定員制) 申込期間：2017年10月～2018年2月
募集費用：1000円(教材代)

申し込みの窓口
ほこた塾事務局(電話 0291-37-4340) 申し込みの締切日：2017年10月31日

第4位

第16回婚活 de まちづくりパンフレット
リーチ 743 エンゲージメント 49

エンゲージメント率がやや奮わず第4位でしたが、リーチ数は743と年間第2位の健闘ぶりでした。お蕎麦が食べたくなるキャッチーでワクワク感のあるパンフレットです。



第5位

第18期ほこた塾特別講座 我が町の史跡探訪① 報告(その2)
リーチ 225 エンゲージメント 48

銚田には古代・中世・近世の歴史の跡がたくさんあります。それらを巡る面白さと感動を伝える力の入ったレポートが高評価に結びつきました。



第6位～第10位

第6位～第10位の結果を次の表にまとめて示します。自然観察会の記事はリーチ数、エンゲージメント数ともに伸び悩んでいます。上位の記事を参考にして、キャッチーな発信の仕方を工夫する必要があるようです。

監的塚が話題となった第8位の「銚田飛行場の記憶」については、リーチ数で見れば508と年間第3位でした。

表 第6位から第10位までの結果

No.	タイトル	リーチ	エンゲージメント
6	第4回自然観察会を開催しました	181	44
7	自然環境部会 第2回移動研修(濁沼&古徳沼)を実施しました	176	43
8	第18期ほこた塾 入塾式・基調講演「銚田飛行場の記憶」	508	40
9	ほこたカルタを歩こう会 旧大洋地区 を開催しました	170	39
10	第18期ほこた塾 第2回基本講座「人口減少と移住定住促進 近隣自治体と銚田市」	167	35
10	第18期ほこた塾 第8回基本講座「カムリカイツブリの銚田市天然記念物指定の動き」	156	35

【まとめ】

FBのページを立ち上げて1年、タイムリーな行事案内や開催報告ができたのではないかと思います。ホームページの「いいね！」数も163に増加し、十分な手応えを感じています。FBやホームページの記事を更新することで、自分自身も磨かれていくようです。今後も興味深い記事の発信に努力していきたいと思います。

(広報部会 田口 雑賀 大木)

運営委員全員集合

運営委員の皆さんに自分の人となりを語っていただきました。

① 氏名 ②年齢 ③座右の銘 ④趣味 ⑤まちづくりに懸ける思い

- ① 野村正満
- ② 69歳（もうすぐ……）
- ③ 一点突破全面展開
- ④ ドローン空撮、パンとケーキ作り、土いじり等々
- ⑤ まちづくりは可能性へのチャレンジ。小さな苗を大樹に育てる努力。ネガティブにならずポジティブな思考方法も不可欠。



- ① 藤井 歩
- ② 46歳
- ③ 我が道を行く
- ④ カエルグッズ収集、カエル部屋が自慢です。
- ⑤ まちづくりに関係ないようですが、生き物の面白さを皆様に伝えていけたらと思います。まだまだ修行中です。



- ① 小沼 勲
- ② 64歳
- ③ あそび半分
- ④ 花鳥風月を楽しむ
- ⑤ 官民共働で銚田らしさを創造していきたい。



- ① 飯塚克則
- ② 49歳
- ③ 常に前進あるのみ。後ろは振り向かない。
- ④ 家族で食事に行く事です。
- ⑤ たくさんの銚田市民の皆さんにどんどん活動に参加して欲しいです。

🌀会計



- ① 田口裕之
- ② 58歳
- ③ 成しても成らぬかもしれぬ
- ④ エイサー太鼓、琉球空手、ゴルフ
- ⑤ 他人に学び、自らの力を引き出し、共同作業でまち創造の持続力を付けていくことだ。

🌀運営委員長



- ① 深作和則
- ② 46歳
- ③ 足るを知る
- ④ バイク、ゴルフ
- ⑤ 若い世代が家庭を持って住みたくなるまちを創りたい。



- ① 雑賀美丘
- ② 58歳
- ③ 至誠感天
- ④ 和紙の折り紙、マヤ歴
- ⑤ 地域の歴史や風土を活かしながら、未来ある子供たちや若い人たちが誇れるような創造性のある楽しいまちにすること。

副運営委員長



- ① 吉田俊郎
- ② 67歳
- ③ いかされている
- ④ 音楽鑑賞
- ⑤ 地域の課題をお任せでなく自らの問題として考える市民が一人でも多く増える事。



- ① 渡辺丘雅
- ② 48歳
- ③ 意なく、必なく、固なく、我なし
- ④ 祭り、ゴルフ
- ⑤ 多くの人を巻き込んで、面白い・楽しいことを基本に、地域の活性化に取り組んで行きたい。



- ① 大木繁夫
- ② 49歳
- ③ マジ〜〜〜ン ゴー!!
- ④ 昆虫観察 (5歳~9歳)、天体観測 (10歳~21歳頃)、音楽鑑賞 (15歳~現在)、野鳥観察 (31歳~現在)、植物観察 (47歳~現在)
- ⑤ これまでに千葉県旭市、水戸、東広島、大洗、南仏エクス=アン=プロヴァンス、鉾田、敦賀に住んだ(あるいは長期滞在した) がありますが、鉾田の自然環境は最高です。鉾田に自然観察や天体観測を行う施設を作って、子供たちに自然科学に興味を持ってもらえるような活動ができればと思います。



各部会より

広報部会

部会長 田口裕之

広報部会では4~5頁の特集にありますように、フェイスブックの立ち上げが大きな成果をもたらした1年でした。各部会の工夫を凝らしたパンフレットや広報部会員の熱心な記事投稿により、多くの訪問者の関心を引き寄せた結果であると感謝しています。

平成30年度もホームページやフェイスブックの更なる充実を図り、紙媒体の広報誌IPPOでも会員の皆様の関心を引き出し、まちづくり推進活動に積極的に参加いただけるよう部会員一同努力していききたいと思います。

人材育成部会

部会長 飯塚克則

人材育成部会では、ユニークな野村塾長を中心にさまざまな講座を企画しています。今年度、第18期は「地球に人にやさしいまちづくり」のテーマのもと、7回の基本講座(座学)と2回の特別講座(移動研修)、そして教育フォーラムを行いました。銚田飛行場…、人口減少…、アントラズ…、障がい者の人権…、麴パワー…、40ヶ国を巡ったバックパッカー…、カムリカイツブリ…、史跡探訪…これだけバラエティに富んだ講座を受講できる団体はなかなか無いかもしれません。第19期も楽しく一緒に学びましょう。

仲間づくり部会

部会長 深作和則

私たち仲間作り部会は、婚活イベントとほこたカルタを歩こう会を実施しております。

平成29年度の婚活事業としましては6月に銚田の特産品であるメロンの食べ放題婚活、9月に飲食店を使つてのミニ婚活、12月に飾り巻き寿司作り婚活、2月



飾り巻き寿司作り婚活



ミニ婚活



常陸太田方面バス婚活



常陸太田方面バス婚活
(そば打ち体験)

に飲食店を使つてのミニ婚活、3月に常陸太田方面へのバス婚活の5回を開催し、多くのカップルの誕生の手助けができたと感じています。

また、ほこたカルタを歩こう会はカルタに紹介されている旧跡名所はすでに歩き終えているため、平成29年度は11月に大洋地区の飯沼街道(鹿島街道)と福泉寺、汲上観音巡りを開催しました。参加頂いた方には銚田の再発見があったことと思います。

仲間づくり部会はこれからも婚活イベントの開催と地域の良い所再発見事業の開催をしていきたいと思ひます。



飯沼街道散策

自然環境部会

部会長 大木繁夫

平成29年度は自然観察会(9回)と移動研修(2回)、清掃活動(4回)を実施しました。7月1~2日に開催された銚田市世界湖沼会議プレ大会では、当部会の活動報告を行う機会があり、失われつつある北浦北部の自然の重要性をアピールしました。カムリカイツブリの繁殖がなかなか見られませんでした。9月17日に2羽の雛を確認できました。9年連続の繁殖です。サンカノゴイ、ヒメクイナ、ケリといった珍しい野鳥の出現も記録されました。第2回移動研修では涸沼にてオオワシを見ることができ、参加者一同、大感激でした。

平成30年は10月に第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)が開催されます。自然環境部会では関連行事に積極的に取り組んで参ります。



編集後記

銚田市まちづくり推進会議の広報誌「IPPO」第15号はいかがでしたか？ 仲間づくり部会の婚活、自然環境部会の自然観察会、人材育成部会のほこた塾と、どの部会の活動もかなりのボリュームになってきました。この少ないページ数の中ではまだまだ紹介しきれないことがたくさんありますが、それぞれの得意分野を生かして、これからも楽しい誌面づくりを心がけていきたいと思ひます。ありがとうございました。S.M